

港湾振興便り



2017. 12

第127号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ

—リーダーを目指す人へお勧め

コリン・パウエルの13カ条—

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 函館港若松地区クルーズ船岸壁整備事業着工式典を開催

(北海道開発局 函館開発建設部)

(函館市 港湾空港部 港湾課)

- 台湾向け海上小口混載輸送サービスによる貨物集約を開始

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

- 「第11回Sea級グルメ全国大会」北海道紋別市で開催が決定！

(みなとオアシスもんべつ運営協議会)

- 久慈港を題材とした絵本づくりイベントを開催

(久慈市 総合政策部 港湾・エネルギー推進課)

- 「みなとオアシスの集いin魚津」が開催されました

(北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所)

- ～京浜港ドック～ 「平成29年度土木学会選奨土木遺産」に認定されました

(関東地方整備局 港湾空港部)

(関東地方整備局 京浜港湾事務所)

- 「みなとオアシスごぼう」の登録証交付式が行われました！！

(近畿地方整備局 港湾空港部 港湾計画課)

- 「みなとオアシス^{あ げのしょう}安下庄」登録証交付式を開催しました！

(中国地方整備局)

- 八代港国際クルーズ拠点整備事業着工式を開催しました

(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)

- 水島港国際ナショナルトレード協議会設立20周年記念講演会を開催

(水島港国際ナショナルトレード協議会(MITA)〈岡山県土木部港湾課〉)

3 お知らせ

◇雪だ！ 灯りだ！ 芸術だ！ あおもり冬のワンダーランド

◇新潟開港150周年プレシンポジウム ～みなとまちの宝を磨いて～

◇土木学会選奨土木遺産認定企画展「横浜港の発展を支えた京浜港ドック1926～」

1 ポートエッセイ

コリン・パウエル^①の13カ条—

[illegible]

パウエル氏は、米国の4軍(陸・海・空軍と海兵隊)を率いる統合参謀本部議長に黒人として初めて、しかも歴代最年少で就任している。著書の中ではパウエル氏の最大の失敗ともいわれる、イラク戦争を開始するに当たっての国連演説にも触れられている。「フセイン政権が大量破壊兵器を保有している」ことを開戦の理由に明確に挙げておきながら、大量破壊兵器はついに発見されなかった「事件」だ。パウエル氏は抑えた筆致ながら、誤った報告を挙げた部署に対して静かな怒りをぶつけている。この1章だけでも読む価値があるが、ここでは冒頭の第1章「コリン・パウエルのルール(自戒13カ条)」を紹介することにする。まさにリーダー的立場にある人への素晴らしい助言になっている、と思うからだ。

1. なにごとも思うほどには悪くない。翌朝には状況が改善しているはずだ。
2. まず、怒れ。その上で怒りを乗り越えろ。
3. 自分の人格と意見を混同してはならない。さもないと、意見が却下されたとき自分も地に落ちてしまふからだ。
4. やればできる(必ずできる、ではない)。
5. 選択には細心の注意を払え。思わぬ結果になることもあるので注意すべし。
6. 優れた決断を問題で曇らせてはいけない(自分の直感を信じて、適切な答えを導き出せ)。
7. 他人の道を選ぶことはできない。他人に自分の道を選ばせてもいけない。
8. 小さなことをチェックすべし(神は細部に宿る)。
9. 功績は分け合う(非難は一人で背負う)。
10. 冷静であれ。親切であれ。
11. ビジョンを持て。一歩先を要求しろ。
12. 恐怖にかられるな。悲観論に耳を傾けるな。
13. 楽観的であり続ければ力が倍增する。

以上が13条からなる「コリン・パウエルのルール」だ。短文では分かりにくいところだけ、私なりのカッコ書きをつけさせてもらった。それでも「これだけでは分からない」と思った方や、興味を持っていた方は本書に目を通してほしい。私が特に気に入った条項は12条と13条だ。「悲観は気分であり、楽観は意志である」との言葉もある。厳しい時代だからこそ、楽観的にあり続け、地域の未来図、港湾の将来図を描いていこう。今年も1年間、ご尽力ありがとうございました。

2 トピック

●函館港若松地区クルーズ船岸壁整備事業着工式典を開催

(北海道開発局 函館開発建設部)

(函館市 港灣空港部 港灣課)

着工式典は、主催者である菊池函館開発建設部長と工藤函館市長の式辞に始まり、浅輪国土交通省大臣官房技術参事官の挨拶のほか、来賓として地元国会議員よりお祝いの言葉をいただきました。その後、来賓や関係者によりくす玉が割られ着工を祝いました。

式典には、港湾関係者ら85名が出席。クルーズ船寄港の際に乗船客に「おもてなし」活動を行っている遺愛女子高等学校の吹奏楽局が記念演奏し、式典に花を添えました。

本事業は、JR函館駅に近接し主要観光地に徒歩で移動ができる函館港若松地区にクルーズ船受け入れのための岸壁を整備するもので、クルーズ船乗船客のアクセス向上、市内滞在時間の増加といった効果が期待できます。



来賓・関係者によるくす玉割りの様子



遺愛女子高等学校による記念演奏

●台湾向け海上小口混載輸送サービスによる貨物集約を開始

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

(一社)北海道国際流通機構、北海道開発局港湾空港部港湾計画課及び、苫小牧港利用促進協議会(事務局:苫小牧港管理組合)が連携し、苫小牧港発の海上小口混載コンテナ輸出を行いました。

10月12日より、輸出実務を担う流通機構が「輸出を検討している」又は「既に輸出経験がある民間企業」等を対象として、全道11カ所で説明会を開催、このサービスの利用企業を募集。その後、11月9日に、道内12社の小口貨物を混載・バンニングを実施し、常温・冷凍コンテナ(20ft)を各1本ずつ台湾へ輸出しました。

常温品の内訳としては、道産野菜、お菓子等の全27品目で、冷凍品の内訳としては、海産物等の全57品目です。

このサービスは、小口貨物であっても混載することで、国外への輸出を安価に実現する内容となっており、今後、道産品の輸出促進が期待されるところです。



説明会の様子のTV報道



コンテナへのバンニングの様子

●「第11回Sea級グルメ全国大会」北海道紋別市で開催が決定！
(みなとオアシスもんべつ運営協議会)

北海道紋別市で「第11回Sea級グルメ全国大会」が平成30年8月25日、26日に開催されることが決定しました。

毎年全国各地のみなとオアシスで開催されている「Sea級グルメ全国大会」に、本協議会では、平成26年の第5回広島県尾道市の大会から、紋別のSea級グルメ「ホタテみそ焼きうどん」を毎年出品しております。

本協議会は平成26年の第5回大会で優秀賞を受賞、富山県魚津市で行われた第10回大会においても1,200食を販売するなど、本協議会のこれまでの実績と、平成30年に紋別で開催したいという竹内代表と本協議会及び紋別市の熱意により、紋別での開催を実現させたものと思います！

紋別市での全国大会の開催は、「みなとまち・紋別」を、道内の海の味覚を、全国へ発信する絶好の機会となります。今後、全国大会の成功に向け、関連イベントなどを検討し、まちをあげて盛大な大会にしていきたいと思います。



Sea級グルメ全国大会in魚津
「ホタテみそ焼きうどん」に並ぶ行列

●久慈港を題材とした絵本づくりイベントを開催

(久慈市 総合政策部 港湾・エネルギー推進課)

11月11日(土)、久慈市内において岩手大学生の企画によるイベント「みなとで絵本をつくろう」が開催され、親子14名が久慈港を題材とした絵本3冊を完成させました。

当イベントは、岩手大学が実施する「地域課題解決プログラム」により久慈港のイメージアップを目的として実施されたもので、作成された絵本は市内5か所に設置された本棚「ほんのみなと」に常備されます。

今回完成した手作り絵本を通じて、久慈港への関心の高まりが期待されます。

※「ほんのみなと」とは

利用者が持ち込んだ本の数と同数の本を持ち帰ることができ、本の循環が生まれる仕組みの本棚です。今回完成された絵本は、持ち帰りの対象外となります。



参加者の集合写真



市内に設置された本棚

●「みなとオアシスの集いin魚津」が開催されました

(北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所)

平成29年10月13日(金)から15日(日)の3日間、富山県魚津市にて「みなとオアシスの集いin魚津」が開催されました。

13日は、「第9回みなとオアシス全国協議会総会」、「みなとオアシスシンポジウムin魚津」が開催されました。同シンポジウムでは、雨宮洋司みなとガイド学習塾塾長が「地域づくりの視点から見た『みなと』のポテンシャル」と題して講演しました。続いて「地域振興、地方創生に貢献するみなとオアシスとは」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

14日、15日は、みなとオアシス魚津にて「第10回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in魚津」が日本海側で初めて開催されました。

今大会は、第10回の記念大会ということもあり、大会史上最多の24団体からSea級グルメの出店があり、2日間で当初予想されていた2万5千人を大きく上回る約3万8千人が来場し、多くの店舗で長い行列が出来、品切れになるなど、大いに賑わいました。

また、魚津港では伏木富山港湾事務所の港湾業務艇「なごかぜ」による魚津沖クルージングが行われ、普段は体験できない海から望む立山連峰の光景を楽しんでいただきました。

みなとオアシスの集いin魚津の開催により、大きな賑わいをみせ、今後の「みなとオアシス魚津」の発展に期待が寄せられます。



パネルディスカッションの様子



Seaグルメ全国大会 会場全景



優勝した「魚津バイ飯」の行列



閉会式の記念撮影

●～京浜港ドック～ 「平成29年度土木学会選奨土木遺産」に認定されました

(関東地方整備局 港湾空港部)

(関東地方整備局 京浜港湾事務所)

関東地方整備局が所有する「京浜港ドック」(横浜市神奈川区)が、9月25日に平成29年度の土木学会選奨土木遺産(※)に認定され、このたび11月21日に、選奨土木遺産関東支部選考委員会より、認定書及び銘板の授与式が執り行われました。

(※)土木学会選奨土木遺産の認定制度は、土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、平成12年度に創設されました。

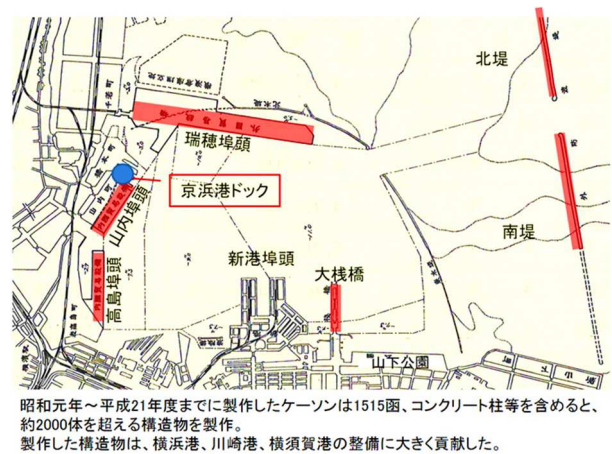
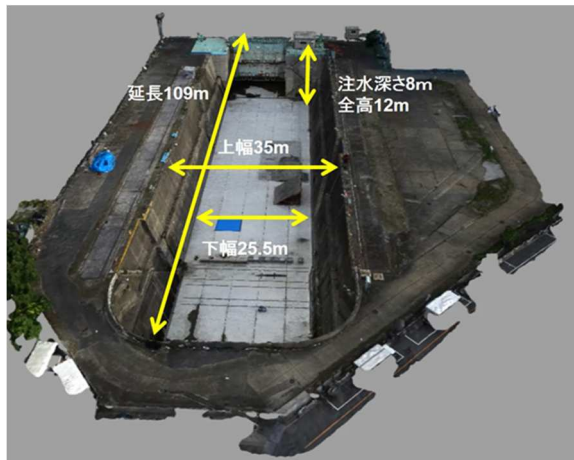


記念撮影



土木遺産認定の銘板

京浜港ドックは、港湾整備に必要なコンクリート構造物を製作するために1926年(大正15年)に完成したドライドックです。横浜港第3期拡張工事(大正11年～昭和21年)において、大型ケーソンや鉄筋コンクリート円環構造物、L型ブロックを大量に製作し、外国貿易を行なう近代横浜港としての整備に大きな役割を果たしました。



名 称: 京浜港ドック
完成年次: 1926(大正15)年4月
形 式: ドライドック方式
所 有: 国土交通省関東地方整備局
管 理 者: 国土交通省関東地方整備局京浜港湾事務所

平成27年度より、実物大の模型実験が可能な実証試験フィールドとして、海洋・港湾に係る新技術の早期実用化に向けて官民共同で研究を推進しており、90年を経過してもなお活躍している施設です。授与式当日には、報道機関を対象とした、実証試験の現地見学会を開催しました。



さらに、関東地方整備局では、認定を記念して、京浜港ドックの足跡について、「横浜みなと博物館特別展示室」でパネル展示を行います。

※詳細は、[後ページの「3 お知らせ」](#)をご覧ください。

●「みなとオアシスごぼう」の登録証交付式が行われました！！

(近畿地方整備局 港湾空港部 港湾計画課)

平成29年11月19日に新たに登録された「みなとオアシスごぼう」の登録証を、同日、第11回宮子姫みなとフェスタのオープニングセレモニーにおいて交付しました。

当日は冷え込みの強い中での開催となりましたが、地元の吹奏楽団の演奏、宮子姫に扮しての行列、よしとお笑いステージなど様々なイベントが行われ、多くの市民で賑わいました。

「みなとオアシスごぼう」は、近畿地方では11箇所目(全国では103箇所目)となるみなとオアシスで、

代表施設である「日高港新エネルギーパーク(EEパーク)」は太陽光や風力等の新しいエネルギーをテーマにした体験型施設であり、多くの方が訪れる御坊市の観光拠点となっているとともに、地元の魅力等の情報発信を行っています。

また、同オアシスの構成施設は、親水施設である「日高港塩屋緑地(Sioトープ)」や、クルーズ船入港時のおもてなしイベントで盛り上がる「日高港塩屋地区岸壁(水深12m)」等、多種多様な観光資源を有する施設となっており、これらが一体的に活動を行うことにより、さらなる賑わい創出を行い、効果的な地域振興に寄与することが期待されます。



主催者挨拶（柏木市長）



来賓挨拶（山田市議会議員）



来賓挨拶（中村県議会議員）



交付挨拶（浅輪大臣官房技術参事官）



登録証交付



集合写真

●「みなとオアシス安下庄」登録証^{あげのしょう}交付式を開催しました！

(中国地方整備局)

山口県の最東端部、周防大島にある周防大島町の安下庄港において、平成29年11月26日、全国で104箇所目のみなとオアシスとなる「みなとオアシス安下庄」として登録されました。

みなとオアシスの登録証交付式は「山口県豊魚祭」と併せて行われ、みなとオアシスの設置者である周防大島町の椎木町長に登録証が手渡されました。当日は、みなとオアシスのイベントである「安下庄海の市」も開催され、魚介類や特産品などの販売や郷土料理の振る舞いがあり、多くの来場者で賑わいました。

この度登録されたみなとオアシス安下庄の「海の市広場」では、毎月第4土曜日に「安下庄海の市」が開催されています。冬はみかん鍋の振る舞い、夏はフラダンスなどもありますので、ぜひ「みなとオアシス安下庄」、そして周防大島へお越しください！



登録証交付
(水谷中国地整副局長(左)から
椎木周防大島町長(右)へ)



右から
林安下庄海の市実行委員会会長、荒川周防大島町議会議長、
柳居山口県議会議長、村岡山口県知事、椎木周防大島町長、
浅輪大臣官房技術参事官、水谷中国地整副局長、
山岸中国地整宇部港空所長



安下庄海の市の様子



みかん鍋

●八代港国際クルーズ拠点整備事業着工式を開催しました

(九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所)

平成29年11月25日(土)に熊本県八代市の八代港にて、「八代港国際クルーズ拠点整備事業 ～耐震強化岸壁整備着工式～」(主催:熊本県、ロイヤルカリビアン・インターナショナル・チャイナ、九州地方整備局熊本港湾・空港整備事務所)が開催されました。

着工式では、築国土交通大臣政務官をはじめとする官民の代表が工事開始スイッチ押しをおこない、来賓者から大きな拍手をいただき事業の着工を祝いました。

当事業により、九州中央の大型クルーズ船の受入拠点が整備されるとともに、岸壁の一部を耐震強化岸壁とすることで、災害時には支援物資等の補給拠点として利用可能となります。



築政務官挨拶



蒲島熊本県知事式辞



R C I タイゲ船長式辞



セレモニーの様子

●水島港インターナショナルトレード協議会設立20周年記念講演会を開催

(水島港インターナショナルトレード協議会(MITA)〈岡山県土木部港湾課〉)

11月27日(月)、倉敷市内において、来賓、会員を合わせて122名のご出席をいただき、MITA設立20周年記念講演会を開催しました。

伊東香織倉敷市長(副会長)の挨拶の後、一般社団法人ウォーターフロント協会会長の金澤寛氏に「最近の港湾行政の動向と水島港への期待」と題して基調講演を、続いて水島港の利用企業を代表して、三菱自動車工業株式会社水島製作所副所長の野村泰弘氏に「水島港と三菱自動車水島製作所」、全農サイロ株式会社取締役専務の荒波隆一氏に「当社の事業戦略と水島港への期待」と題してご講演いただきました。

講演会終了後の記念レセプションでは、伊原木隆太岡山県知事(会長)の開会挨拶に続き、石井正弘参議院議員、谷合正明参議院議員、柚木道義衆議院議員、梶田省三倉敷市議会議長から祝辞をいただきました。

日本港湾振興団体連合会の助成も受けて開催した今回の講演会は、今後の水島港のさらなる発展に向けての機運を醸成する大変有意義な機会となりました。

当協議会では、今後とも会員の皆様方のお役にたてるよう水島港の振興に取り組んで参ります。



伊東市長あいさつ(講演会)



金澤講師



野村講師



荒波講師

*:

3 お知らせ

*:

◇雪だ！灯りだ！芸術だ！あおもり冬のワンダーランド

【開催日時】平成 29 年 12 月 1 日(金)～平成 30 年 3 月 4 日(日)

【開催場所】青森ウォーターフロントエリア他

【概 要】市民創作の和紙オブジェ「雪だるま～」が点灯する「あおもり灯りと紙のページェント」やふんどし姿で綱引きをする「ザ・もつけ祭&冬花火」など、さまざまなイベントが開催されます。

【主 催】雪だ！灯りだ！芸術だ！あおもり冬のワンダーランド実行委員会

【問合せ先】公益社団法人 青森観光コンベンション協会

【 U R L 】<http://www.atca.info/img/top/wonder2017.pdf>

◇新潟開港150周年プレシンポジウム ～みなとまちの宝を磨いて～

【開催日時】平成30年1月13日(土)13:30～16:30(開場13:00)

【会 場】朱鷺メッセ 4F マリンホール(新潟市中央区万代島6-1)

【定 員】先着250名

【概 要】新潟のみなとまちとしての歴史を振り返りその魅力について考えてもらおうと「プレシンポジウム～みなとまちの宝を磨いて～」を開催します。

第1部の基調講演では新潟大学人文学部の原直史教授が「みなとまち新潟の繁栄とあゆみ」をテーマに講演。第2部のパネルディスカッションでは、越乃リュウさんらを迎え「みなとまち新潟の宝」について語り合います。

【内 容】第1部:基調講演(13:40～)

○講師 原 直史教授(新潟大学人文学部教授)

○演題「みなとまち新潟の繁栄のあゆみ」

みなとまち新潟フォトコンテスト 入賞者表彰(15:00～)

【講評】渡辺 収一郎氏(日本写真家協会会員 新潟県美術家連盟副理事長)

第2部:パネルディスカッション「みなとまち新潟の宝」(15:20～)

○コーディネーター

原 直史教授

○パネリスト

越乃 リュウさん(TEAM Nii port スペシャルクルー・元宝塚歌劇団月組組長)

あおいさん(古町芸妓)

小島 富美子さん(にいがた湊あねさま倶楽部)

篠田 昭(新潟市長)

【参 加 費】無料

【申 込 み】

<https://www.shinsei.elg-front.jp/niigata-City/uketsuke/dform.do?id=1511161567155>(パソコン)

<https://www.shinsei.elg-front.jp/niigata-City/uketsuke/iform.do?id=1511161567155>(携帯電話)

<https://www.shinsei.elg-front.jp/niigata-City/uketsuke/sform.do?id=1511161567155>(スマートフォン)

【問合せ先】新潟開港150周年記念事業実行委員会事務局

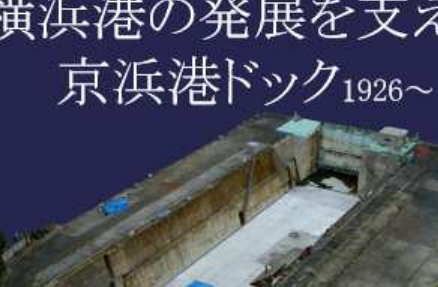
＜新潟開港150周年記念事業 公式ウェブサイト <http://www.nii-port.com>>



【概要】関東地方整備局では、土木学会選奨土木遺産認定を記念して、京浜港ドックの足跡について、「横浜みなと博物館特別展示室」でパネル展示を行い、併せて横浜港の建設経緯、港湾整備の整備について、様々な資料で展示、ご紹介する企画展を開催しますので、皆様是非ご覧下さい。

[企画展]平成29年度土木学会推奨土木遺産認定企画展

横浜港の発展を支えた 京浜港ドック1926～



ドローン空中撮影によるSDG



昭和12時代の京浜港ドック

- ・展示内容
- ・京浜港ドックについて
- ・横浜港建設の歴史
- ・現在の横浜港設備
- ・現在の京浜港ドックにおける調査試験

2018年

1月6日(土) - 1月14日(日)

会場＝横浜みなと博物館特別展示室
開館時間＝10:00～17:00
特別展示室入館料＝無料
※来場の際は別途入場料が必要です。
主催＝国土交通省関東地方整備局（一財）かなた総合防災研究所

〒213-6436 横浜市中区北仲通1-57 国土交通省 関東地方整備局 かなた支庁
TEL: 045-211-7420 FAX: 045-211-0004 <http://www.pajr.mlit.go.jp/enkei.html>

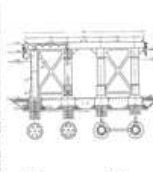
国土交通省 関東地方整備局

企画展 平成29年度国土交通省「国土水産省定公開図鑑」

横浜港の発展を支えた 京浜港ドック 1926～



昭和5年に製作された横浜東横倉庫1号（1・2号棟）



昭和50年代のケーソン製作状況



昭和50年代のケーソン製作状況



平成10年代のケーソン製作状況

-京浜港ドックは、横浜市神奈川區山崎町に位置し、関東地方整備局の横浜支店及び港湾部横浜土木建設所が、1926（大正15）年に横浜第三期防務工事の附施設として、当時の大型ケーソン建造のために着工し、1928（大正13）年の関東大震災を挟み、1926（大正15）年4月に竣工した施設である。

-現在は関東地方整備局東京港湾事務所管理し、大正15年からこれまでに約4,600（四〇〇）ものエンゲル1型ケーソンやバウチンを製作し、横浜港・川崎港・横浜東横倉における防波堤や船渠の整備に貢献し、港の発展を支えた施設である。

-現在、京浜港ドックは、美術館の横浜美術館や新横浜国際総合競技場（VJスタジアム）など、多岐にわたる公共施設の建設に活用されている。2016（平成28）年からは、当時の新技術開発と関連するため、京浜港ドックを活用した実験型の公費制度を導入し、造幣官道橋により実験研究を実施している。

横浜港への船舶移入					
船名	トン数	引揚能力	乗組員	積載量	
長門丸	100.0	25.0	18.0	8.2	25,000



京浜港ドック位置図



●横浜港内、東京湾内から「VJ」へ船舶が運搬されるルート
●赤い点線は、船舶が「VJ」へ運搬されるルートを示す

〒211-8436 横浜市中央区仲通5-67 国土交通省 関東地方整備局 港湾安全センター
TEL:045-211-7420 FAX:045-211-0204 <http://www.psa.ktr.mlit.go.jp/index.html>

国土交通省 関東地方整備局

::*: 本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先 :*:~::~
日本港湾振興団体連合会事務局
〒105-0002 港区愛宕１－３－４
TEL:03-5776-0630 FAX:03-5776-0631
e-mail:bcf06323@nifty.com
:~::~